



進路選択の出発点

君たちがやったR-CAPを、実は私も受けさせられていたのである。で、結果が返ってきたのだが、まあ、なんと申しましょうか…。

＊

結果をめくって最初のページに登場する円グラフ、つまり、「「興味・関心」からみたキミのタイプ」は、C（クリエイター）が29%、W（ウォッチャー）が25%、S（サポーター）が12%であった。あとは、E（エンジニア）→A（アナライザー）→P（パフォーマー）→D（ディレクター）と続き、一番低いのはF（フィールダー）。

その結果、「満足できそうな職業」が、

- ①インテリアコーディネーター
- ②心理カウンセラー
- ③小学校教諭

である。まったく予想外…でもないかなあ。インテリアコーディネーターはやってみたい気がしないでもない。続いて「満足できそうな学問」のページに行くと、

- ①歴史学（西洋史）
- ②社会学
- ③言語学

となっていて、こちらも、ほぼほぼ「納得」といったところか。

さらにページをめくると、「職業適性ランキング123」で、もっとも偏差値が高かったインテリアコーディネーターが75、心理カウンセラーが73くらい、小学校教諭は70である。ちなみに、高校教諭はというと52くらい。まあ、13Rを見ていると、高校の教室というよりは小学校の教室のような感じがしないわけではないので、納得できる結果といえようか（笑）。

C（クリエイター）だけあって、新聞・雑誌記者、作家・ライター、アナウンサー・レポーター、役者・俳優といった職業が軒並み70近くになっており、もしかしたらガッキーの父親役をやっていたかも知れない…という可能性に気づいて、思わず人生を後悔せずにはいられなかったのだが、変わったところでは、フライトアテンダントとフラワーコーディネーターがともに偏差値65となっていて、アテンションプリーズな可能性もあったわけである。ただ、やはり総じて文系な感じの職業が並んでいて、理系的な感じがするものは、グラフィックデザイナーとCADオペレーターが65を超えていたくらいである。逆に、最も偏差値が低かったのは、流通・小売店店長。全般に財務・会計・経営系は低かった。我家の経済状態が混迷の度を深めている遠因が、こんなところに表れるとは…（泣）。

次のページの「学問適正ランキング84」では、歴史学（西洋史）の偏差値が78くらいで飛び抜けていて、あとの言語学・歴史学（日本史）、社会学、デザインなどはみんな67くらい。本業の日本文学は61くらいだから、まあまあといったところか。「キミの文理傾向」も、78%くらい文系であった。

＊

というわけで、参考にすべき部分もそれなりにあるのかも知れない。この検査は「能力」ではなく「興味・関心」が中心にある。「興味・関心」こそが、進路選択では大切だからである。「能力」などは、後からいくらでも養成すればいいだけのこと。まずは「やってみたいこと」、そこを出発点にしよう。